

大きい木も
小さい木も
じぶんで立っている

ほんだ

2月14日



新発田市立本田小学校

明治7年7月27日から続く思い

教頭 宮澤 達也

東京オリンピックまであと5か月余り。今年の夏は、金メダルラッシュで日本中が沸くのでしょうか？そういえば、今から28年前の平成4年。バルセロナオリンピックで岩崎恭子選手が日本人史上最年少で金メダルを取ったのは7月27日でした。

さて、それから更に118年さかのぼり明治7年。同じ7月27日。本田村第74番地仲山寺の庫裏を借りて本田小学校がスタートしました。今から146年前のことです。

全児童は、全員男子で34人。教師は渡辺綱二、諸橋信九郎、長谷川慎吾の3人であったと記録が残っています。

この頃の学校年度は今のようには4月開始ではなく、9月開始でした。ならば、9月の開校でも良さそうと思いますが、少しでも早く子どもたちに勉強させたいとの思いから7月27日開校にしたのではないかと考えます。ちょうど、その時期は土用入り。田んぼは中干しの時期で、農家の仕事も人手を必要としない、子どもたちを学校に通わせやすい時期だとの配慮があったのかもしれませんが。



本田尋常小学校

明治後期の写真

ちなみに、この頃の本田村の人口は1,507人で、戸数は337戸、内317戸が農家でした（明治13年「本田村誌」）。

また、この頃の小学校は授業料を徴収してもよいことになっていますが、本田小学校では明治中期まで子どもたちからは授業料を取らず、全て村費でまかっています。

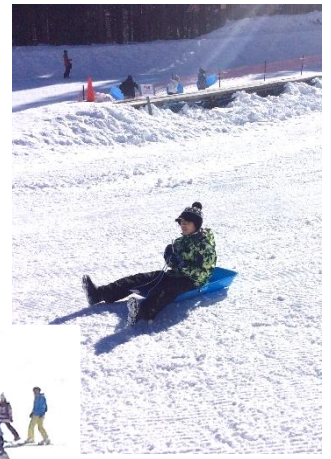
2年後の明治9年。田中栄次郎、田中徳太郎所有の建物を借りて校舎を移します。この建物は教室3部屋と体操場や食堂があるなど、増えた児童数に対応できる大きさとなっています。その後明治22年、現在の場所に校舎を建築し移転します。その時に寄付してくれた村の方々の名前は、今でもきちんと学校に保管されています。

令和3年3月31日、本田小学校は閉校します。閉校記念事業の準備等で地域の方々から感じる子どもたち・学校に対する思いは、子どもたちのためならと労苦をいとわない熱い熱い思いです。これは、本田小学校の歴史と照らし合わせると昔も今も変わりません。創立以来続いている思いだと感じています。

今、学校では来年度の教育活動の準備をしています。最後の年度に子どもたちに地域の方々の子どもたち・本田小学校への熱い思いにも触れさせたいと思っています。そのことが、たとえ学校が無くなっても、ふるさと本田を大切に、そして誇りに思う心につながると考えるからです。

今後とも、教育活動の充実のため地域・保護者の皆様からのご協力をお願い申し上げます。

雪遊び・スキー教室



今年はや暖冬で心配でしたが、雪遊びとスキー教室を2月12日(水)に、ニノックススキー場で実施しました。1～3年生は、キッズパークの長い坂でそり遊びを楽しみました。ソリをうまくコントロールしながら何回も滑りました。4年生からはスキーです。基礎的な技能を身につけ、長いゲレンデをすいすいと滑り降りることができるようになりました。今年もたくさんの保護者の方からボランティアに参加していただきました。ありがとうございました。



みんな真剣に挑戦! 「豊浦ふるさとかるた検定」



ふるさとへの誇りと愛着を育みたいとの願いから始まった「豊浦ふるさとかるた検定」。今年で4回目となりました。会場となったランチルームは、しんとした静寂の中に字を書く音だけが響く心地よい緊張感があふれる場となりました。「あと1問、何だっけ?」と頭を抱える子。「全部書けた!」と胸を張る子など検定中の表情は千差万別ですが、子どもたちの心にしっかりと豊浦のことが刻まれたことでしょう。

全校道徳授業公開



2月6日(木)、インフルエンザ流行により延期となった学習参観日でした。この日は、全学年で人権教育、同和教育の授業を行いました。

授業では「決めつけは、おかしい」「これは、差別じゃない?」との声が聞こえ、子どもたちは、真剣に考え、どうしていけばよいのかを話し合いました。

今、私たちが暮らしている社会には、残念ながら差別は続いています。差別は決して許されるものではありません。子どもたちがこれから生きていく社会が差別がない社会となるよう、今後も、保護者、地域の皆様とともに、人権感覚を高め、差別を許さない子どもの育成に努めていきます。

